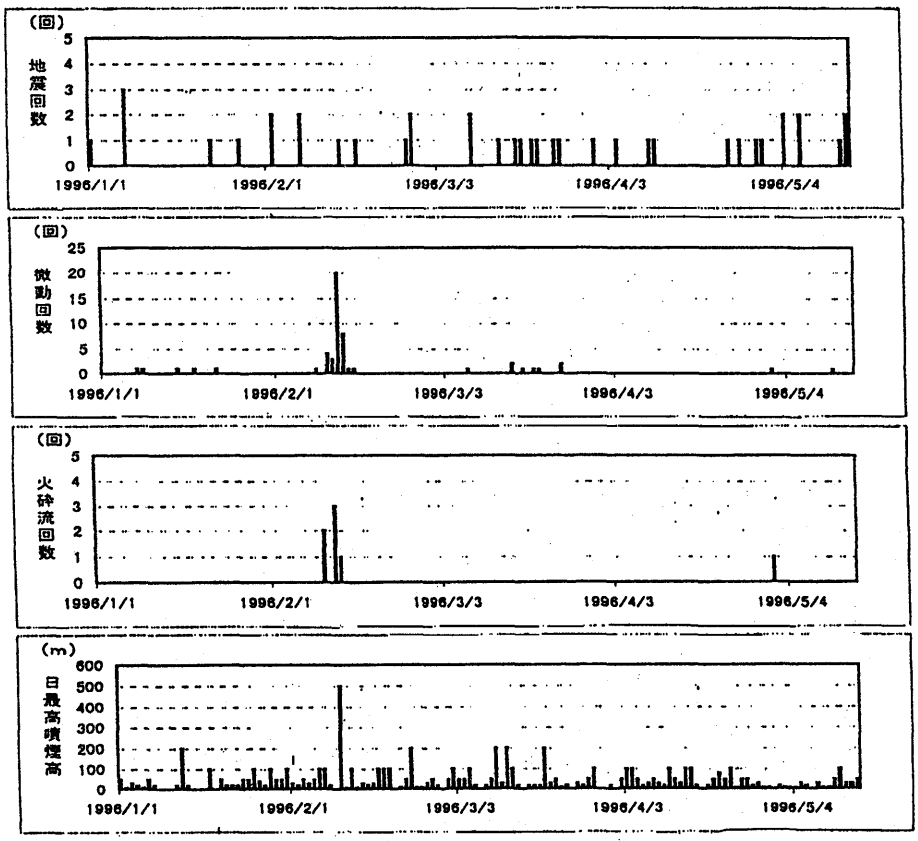
雲仙岳の火山活動（17）*
— 1996年2月～5月 —

Volcanic Activity of Unzendake Volcano (16)
— Feburuary－May 1996 —

雲仙岳測候所
気象庁火山課
Unzendake Weather Station, JMA
Volcanological Division, JMA

1　火山活動概要

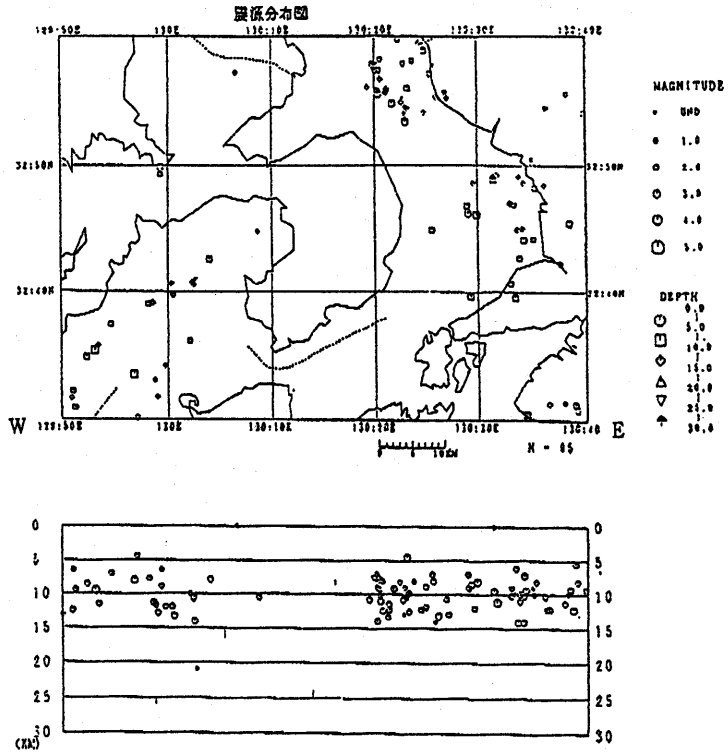
この期間も引き続き，火山性微動・微動回数は少ない状態で経過した。また，測量観測によっても溶岩ドームにほとんど変化は見られない。2月，5月に古い溶岩ドームの一部の崩落による火砕流震動波形を観測したが，火山活動は全般に落ち着いた状態が続いた。



第 1 図　雲仙岳日別地震回数・微動回数・火砕流震動回数・噴煙高度（1996年1月1日～5月15日）
上　　図：地震回数（気象庁A点地震計）
2番目図：微動回数（気象庁A点地震計）
3番目図：火砕流震動回数（気象庁E3点地震計で30秒以上の震動）
最 下 図：噴煙高度

Fig. 1　Daily frequency of earthquake, tremors, pyroclastic flows seismically counted and height of steam and ash cloud, at Unzen-dake volcano, Janualy～15 May 1996.
top : Daily frequency of earthquakes recorded by stasion A on the volcano.
2nd : Daily frequency of tremors recorded by stasion A on the volcano.
3rd : Daily frequency of pyroclastic flows seismically counted.
bottom : Height of steam and ash cloud.

* Received 16 Aug., 1996



第 2 図　島原半島周辺の地震活動（1996年１月21日～５月15日）
Fig. 2　Seismicity around Shimabara peninsula (21 Junuary～15 May 1996)

2　地震活動および火砕流

第１図に1996年１月からの地震・微動・火砕流回数および噴煙高度の日最高値を示す。地震回数は非常に少ない状態が続いている。1996年２月10日に約１年ぶりに火砕流と思われる震動波形を観測した。12，13日と合わせて６回観測され，いずれも南東方向に約1.5km 流下した。しかし，これらは新たなマグマの噴出によるものではなく，古い溶岩ドーム（第８ドーム）の不安定な部分が崩落したものである。この崩落に伴う微動回数も一時的に増加した。また，５月にも火砕流と思われる震動波形を１回観測した。第２図に島原半島周辺の震源分布図を示すが，この期間特に目立った地震活動はみられなかった。

3　溶岩ドーム

雲仙岳測候所では遠望カメラ，機上観測，定点からの目視観測・写真撮影・セオドライト観測等により溶岩ドームの状況を観測している。

この期間各観測点からの稜線測量によると，溶岩ドームの形状にほとんど変化はなかった。

4　傾斜変動を伴う火山性微動

1996年３月24日に1995年８月29日以来約７か月ぶりに微小な傾斜変動を伴う火山性微動が観測された（計25回目）。

5　噴　煙

雲仙岳測候所では遠望カメラにより噴煙の観測を行っている。２月に古い溶岩ドームの崩落による火砕流により高さ 500m の噴煙が観測された他は低めに推移した（第１図）。